

制服等検討委員会ワーキンググループ 中間報告書

1. はじめに
2. 活動報告
3. 諮問文に対する議論状況
4. 最終答申に向けた方向性(提案)

1. はじめに

このワーキンググループは、発足メンバーの3年生9人、2年生5人、1年生1人、担当教員2人、加えて、後期より加入した2年生3名、計20名で構成されています。これまで、限られた時間の中で集まり、多くの意見を出し合い、諮問文に対する議論を行ってきました。

マスメディアでは、私たちの活動を「制服廃止」・「自由化」といわれることもありますが、私たちの役割は、「北高の制服を廃止する」ということではありません。最終的な決定は、本校責任者の校長先生にあります。【※①】私たちは、4月に出された諮問文に対し、制服等に関する検討委員会が答申をするために議論を行い、生徒の意見や情報を収集することを役割としています。

また、この一連の活動の目的は、誰もが過ごしやすい学校にするための方策を考えることです。「今後の方針」で記した内容は、「規定を緩めたい」という「目的」ではなく、過ごしやすい学校にするための1つの「手段」です。私たちは、日々変容する社会と共に、自分たちの生活に関する課題を自ら考え、共に生活する先生方とも語り合い、全体としての意見を構成していきたいと思えます。

私たちのこれまでの活動は、制服等検討委員会のホームページにまとめてあり、北高のホームページから見るができます。このホームページから、誰でも意見を伝えることができます。このホームページは、多くの生徒、先生、保護者、地域の方々に、私たちがどのようなことを議論しているのかを紹介し、より開かれた取り組みにすることを目的としています。私たちの活動を多くの人が認知して下さるといいなと思えます。

私たちワーキンググループメンバーは、80年の歴史ある岐阜北高校、現在を生きる岐阜北高校、そして未来の岐阜北高校のために、残りの数か月間の活動を大切に行っていきます。

2021年11月1日 ワーキンググループメンバー一同

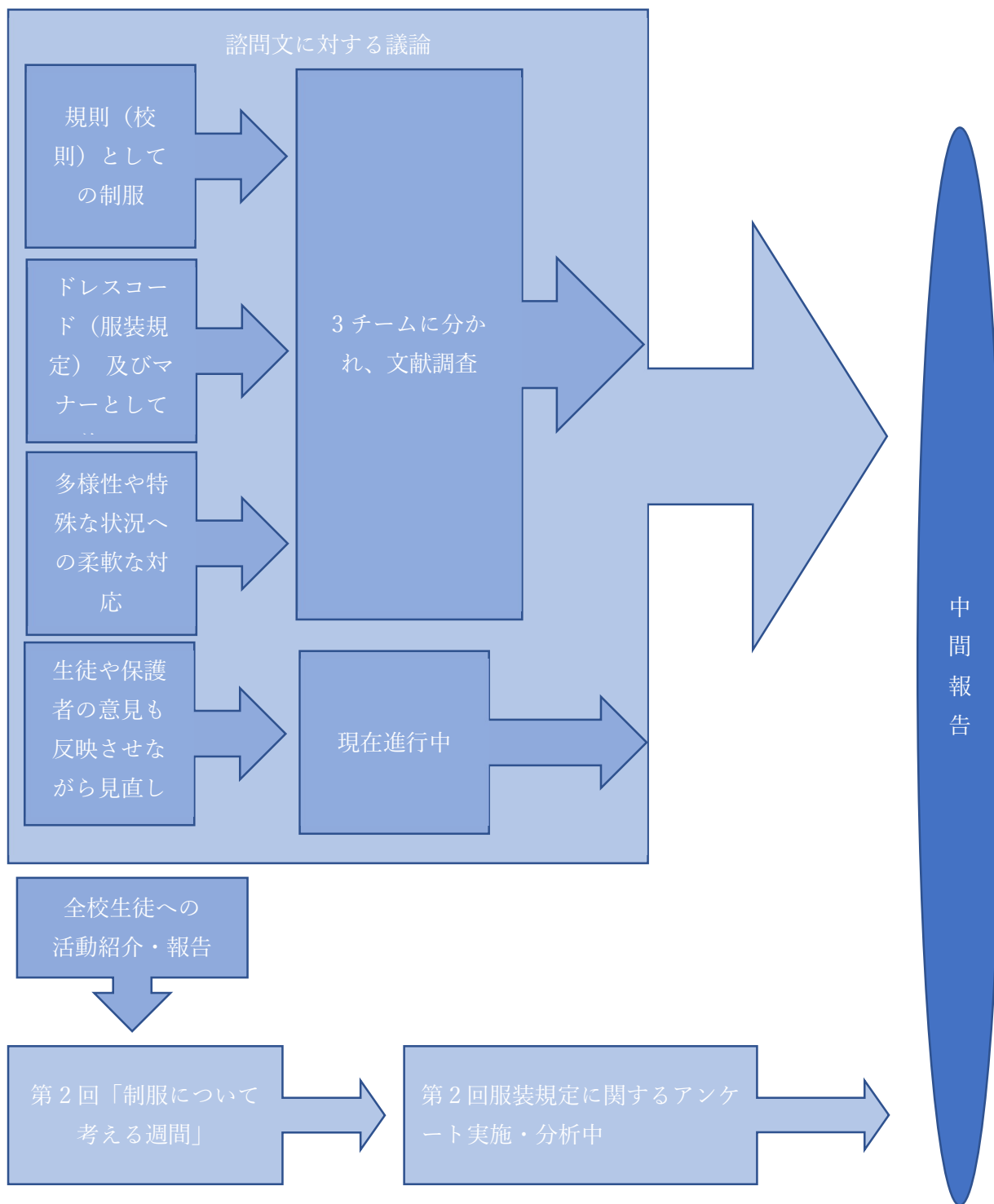


←制服等検討委員会ホームページ QRコード

(同ページ URL) <https://gifukitawa-kingu.jimdofree.com/>

2. 活動報告

4月22日に委嘱された、計17名は、6月より実質的な活動を開始した。一部、コロナ感染拡大に伴い、予定通り進まないこともあったが、多くの方々の協力を得て議論を進めることができた。



3. 諮問文に対する議論状況

(1) 規則(校則)としての服装

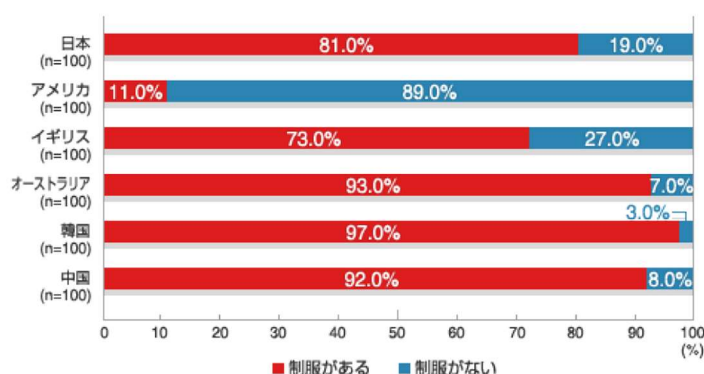
【標準服について】

- ・標準服とは、学校などの組織において、所属者が着用することが望ましいとされる服装。制服とは異なり、常時着用の義務はなく、推奨されるに留まる。【実用日本語表現辞典より】
- ・「制服に関する座談会」では、岐阜菅公学生服株式会社の方から、「標準服＝制服ではない」ことに注意してほしいとの指摘を受けた。

【海外の状況】

- ・海外の高校での制服着用状況は国により差があるようだ。アメリカでは、制服が「ある」学校は少なく、11%である。一方で、アメリカ以外の5か国(日本、イギリス、オーストラリア、韓国、中国)では、制服が「ある」学校が70%を超えている。【図1】
- ・どの国においても、制服肯定派と制服否定派それぞれに理由があり、それぞれの国の社会状況や習慣、文化を反映している。【図2】

【図1】国内外の高校の制服着用状況



【図2】制服肯定派と制服否定派の理由

制服肯定派	制服否定派
日本 学校とプライベートの気持ち区分するため 学校の看板だから	日本 堅苦しい 没個性だと感じている
アメリカ 良い服を持っているか競い合わなくてすむ ネクタイの結び方、アイロンのかけ方などを学べる	アメリカ 皆同じに見える 制服がないほうが、創造性が高まる
イギリス 身分の証明 服装によるいじめを防ぐ	イギリス 個性を表現しない 人には着たいものを選ぶ権利があるのに、着たいものを着られない
オーストラリア 着るものによるいじめを防ぐ 帰属意識を感じるため	オーストラリア 着心地がよくない 自由が奪われる
韓国 私服の費用がかからないし、団結できる 身分がわかりやすいから	韓国 堅苦しい 制服を着るのは面倒に感じる
中国 服装が統一されると整然として綺麗なで 識別がしやすくなる	中国 古臭く、個性がなく、元気がないように見える 学校でしか着られないのもったいない

【図1】【図2】：

菅公学生服株式会社 カンコーホームルーム 2007年 Vol.20「6ヶ国の高校生制服に関する意識調査」

<https://kanko-gakuseifuku.co.jp/media/homeroom/070925> より引用

(2) ドレスコード（服装規定）及びマナーとしての着こなし

【制服の着こなしについて】

・ワーキンググループ内での議論では、「着崩したい」という主張の理由として、「個性を出したい」、「真面目にみられるのがいやだ」といった、感情的な意見が多かった。「着崩しは良くないという主張」の理由としては、「そもそもルール違反」、「周りからの評価が悪化する」といった意見が挙がった。

・第2回アンケート【図3】では、服装規定において個性の表出が「とても必要」「どちらかといえば必要」と回答した生徒が多い一方で、教職員間では、「どちらかといえば必要ない」と回答した人が多かった。生徒間と教職員間の考え方の違いが判明したため、今後さらに自由記述回答を分析し、精査していきたい。

・今後ドレスコードやマナーの必要性について、より客観的な情報を示せるようにしていきたい。

（参考資料：第2回制服規定に関するアンケート）

Q12：学校生活を送る上で、現在の服装規定以上に次の i ~ iv の要素は必要だと思いますか？

うち、「ii）個性の表出」について、次の4択で回答してください。

- ①とても必要だと思う ②どちらかといえば必要だと思う
③どちらかといえば必要ない ④全く必要ない

【図3】服装規定と個性の表出について

【生徒対象】（母数：606人）		
①とても必要だと思う		139
②どちらかといえば必要だと思う		242
③どちらかといえば必要ない		179
④全く必要ない		46
平均値：2.22		

【教職員対象】（母数：33人）		
①とても必要だと思う		2
②どちらかといえば必要だと思う		10
③どちらかといえば必要ない		16
④全く必要ない		5
平均値：2.73		

【制服以外の衣類について】

・昨年度冬季は、コロナ対策のための換気による寒さ対策の為、授業中にも羽織物を着用することが許可された。このように制服以外の衣類の着用については、一時的に認められているのが現状である。

・今後も、気候などに考慮し、議論を進めていくべきだと考えている。

(3) 多様性や特殊な状況への柔軟な対応

【ジェンダーやイスラム教徒のヒジャブなど、少数者への配慮】

- ・様々な対応が可能であるが、少数意見をすべて反映させるのは不可能。意見があれば、すぐに反映できる体制は必要である。
- ・第2回服装規定に関するアンケートでは、生徒、教職員共に、服装規定にジェンダーに関する配慮が「とても必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と回答した人が多数を占める【図4】。
- ・本校では既に、スラックス型制服の導入などを通し、ジェンダーに関する対応が動き出している。

(参考資料：第2回制服規定に関するアンケート)

Q12：学校生活を送る上で、現在の服装規定以上に次のi～ivの要素は必要だと思いますか？

うち、「i）ジェンダーに関する配慮」について、次の4択で回答してください。

- ①とても必要だと思う ②どちらかといえば必要だと思う
③どちらかといえば必要ない ④全く必要ない

【図4】 服装規定とジェンダーに関する配慮について

【生徒対象】（母数：606人）		【教職員対象】（母数：33人）	
①とても必要だと思う	280	①とても必要だと思う	16
②どちらかといえば必要だと思う	202	②どちらかといえば必要だと思う	13
③どちらかといえば必要ない	68	③どちらかといえば必要ない	2
④全く必要ない	56	④全く必要ない	2
平均値：1.84		平均値：1.70	

【緊急事態宣言時など、換気や衣類の洗濯、消毒等、感染症防策が最優先される場合】

- ・学校長、生徒指導部などが対応（あくまで緊急措置）

(4) その他 生徒や保護者の意見も反映させながら見直しできるしくみ

【生徒議会、生徒と教員が協議し企画提案できる場】

- ・現在進行中

【学校運営に関して学校関係者や地域住民からの意見を聞ける場（学校運営協議会等）】

- ・現在進行中

4. 最終答申に向けた方向性(提案)

【方針】：現在の状況から規制を緩和することが妥当

(最大の緩和を制服・私服の選択制とし、どこまで緩和することが妥当なのかを今後検討していく。)

根拠① 第2回服装規定に関するアンケートにおいて、「②制服は維持するが、規制を緩和する」と「③服装を自由化する」のうちどちらかの選択肢を回答した人が、80%を超え、多くの人が現状の規定の改善を求めていると言って良いだろう。〔【図5】参照〕

【図5】 Q6 岐阜北高校の服装規定はどうあるべきか (第2回服装規定に関するアンケートより)

【生徒対象】 (母数：606人)			【教職員対象】 (母数：33人)		
①現在の服装規定を維持 (制服のみ)	97	16%	①現在の服装規定を維持 (制服のみ)	9	27%
②制服は維持するが、規制を緩和 (制服のみ、一部服装規定改正)	228	37%	②制服は維持するが、規制を緩和 (制服のみ、一部服装規定改正)	10	31%
③服装を自由化 (制服・私服の選択可)	276	46%	③服装を自由化 (制服・私服の選択可)	14	42%
④私服化する (私服のみ)	5	1%	④私服化する (私服のみ)	0	0%

根拠② 服装規定に求める内容として、「⑤過ごしやすく快適である」ことを選択している人が多い。また、「②北高生の多様性を望む」を選択した人も多い。気候やジェンダーへの配慮、価値観の多様化などの社会情勢も考慮した規定の改善が必要である。〔【図6】参照〕

【図6】 Q7 Q6で選択した服装規定を望む理由について (第2回服装規定に関するアンケートより)

【生徒対象】 (複数選択可)		【教職員対象】 (複数選択可)	
①北高生の統一感を望む	132	①北高生の統一感を望む	12
②北高生の多様性を望む	255	②北高生の多様性を望む	13
③経済的である	75	③経済的である	12
④品位がある	61	④品位がある	9
⑤過ごしやすく快適である	398	⑤過ごしやすく快適である	17
⑥楽・便利である	334	⑥楽・便利である	10
⑦気分が高まる	95	⑦気分が高まる	3
⑧トラブル防止、防犯につながる	51	⑧トラブル防止、防犯につながる	13
⑨学習面で良い影響がある	89	⑨学習面で良い影響がある	4
⑩その他自由記述	14	⑩その他自由記述	1

【多数派でない意見に対して】

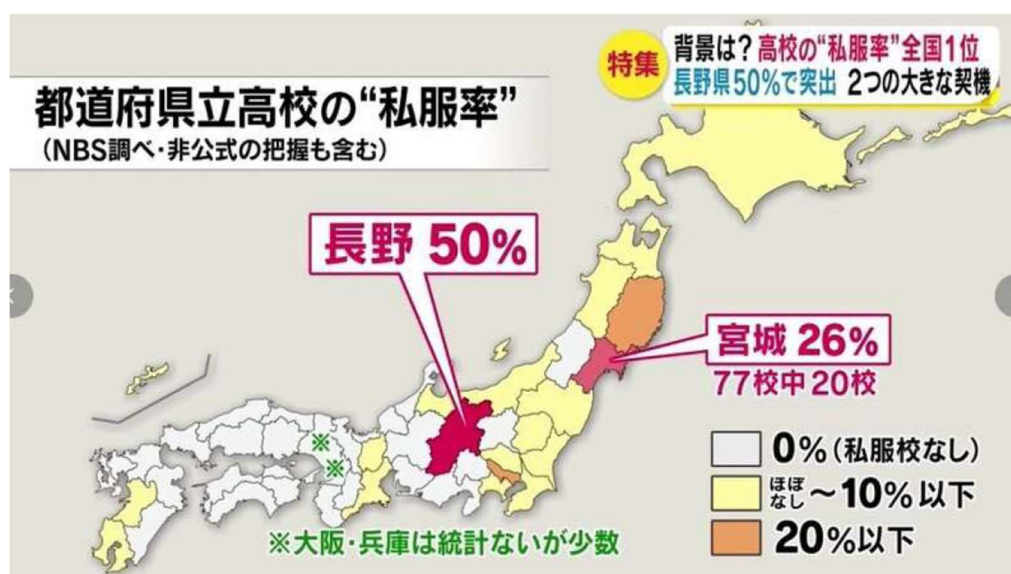
生徒間には16%の「現状維持」や、1%の「完全私服化」を望む声がある。教職員間には、「現状維持」や、「北高生の統一感」、「経済的である」を望む声も多い。これらの声を無視することはできない。最大多数でない意見や、少数の意見にも配慮し検討する必要がある。しかし、全ての人の意見を採用することは難しい。また、最終的に規定を決定する際、どうしても多く反映されるのは多数派の意見かもしれない。

このような中で、少数者が差別を受けない環境・雰囲気づくりに努めるのが、多数派の責任でもある。大切なことは、対立や差別でなく、どうすればそれらをなくしていけるか、すべての人が当事者として考えていくことだと思う。このことは、全校生徒にも共有したい。

【服装規定の緩和により考えられる課題に対して】

- ①安全性：「制服でない」と判別がつかず、危険」とする声があるが、私服で運営されている学校は多数あり【※1】、問題はないと考えている。問題ないと言える根拠については、今後検討したい。また、身分の確認が必要な場合、校則により規定されているように、常に学生証を携帯している【※2】ため、安全確認ができる。
- ②経済面：もし制服と私服を選択制にする場合、それぞれの家庭状況に合わせて選択できる。また、私服は、休日に着用しているものや部活動の服装などもあり、必ずしも新たに購入する必要性はない。また、制服の規定を緩和する場合、新たに購入するものはない。

(【※1】都道府県立高校で私服を採用している校数)



全国の都道府県立高校における私服採用の割合 ※長野放送の記事より引用

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/9c80280a4d84bee1a4450bd7b84f25822ded000f?page=1> より引用)

【※2】 本校ホームページ：[2 生徒心得](#)より)

2 生徒心得

(1) 校内生活

ア 規定の服装を着用し、学生証を常に携帯して、本校の生徒であることを明らかにすること。

【※①】 (https://www.mext.go.jp/content/1407196_22_1_1_2.pdf より引用)

【特別活動編】 高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説

第 4 章 指導計画の作成と内容の取扱い 第 2 節 内容の取扱いについての配慮事項

1 生徒の自発的，自治的な活動の効果的な展開

(1) 指導内容の特質に応じた生徒の自発的，自治的な活動の展開

イ 自発的，自治的な活動には，一定の制限や範囲があることについても生徒に理解させ，必要な場合には的確な助言や指示を行うなどの指導

自発的，自治的な活動における「自治的」と「自治」との違いやその活動の最終的な責任者は校長であることを理解させることも大切である。このような指導が効果的に行われていくためには，自分たちの可能性が生かされ，任されているという認識の下に，意欲的・積極的に参加できるような日常的な指導に加え日頃から教師と生徒の触れあいを深め，信頼関係を築いていくことが大切である。

以上が、これまでの活動及び、諮問文に対する議論状況の報告です。

最終答申までにさらに議論及び調査を進めるとともに、ワーキンググループメンバーに限らず、学校全体が当事者意識を持つことができるよう積極的に情報を共有し、開かれた議論を継続していきます。

この中間報告書を作成するにあたり、岐阜菅公学生服株式会社をはじめとする多くの方々のご協力を賜りました。この場を借りてお礼申し上げます。

また、これまで岐阜北高校の校長先生をはじめ、多くの先生方に温かいご指導ご鞭撻を賜りました。今後ともよろしく願います。

スクールポリシー「荒野をひらく探究人」 ←

【1】 自己の哲学の礎を築き、粘り強く物事に取り組める人材を育成します 【自分を啓く】 ←

【2】 「知」に食欲になり、主体的・創造的に探究できる人材を育成します 【自ら拓く】 【3】 多様な他者と協働し、課題解決できる人材を育成します 【ともに拓く】 ←

